

活動内容:国際学会での発表

## ヨーロッパ国際学会に見る研究潮流と我々の立ち位置

伊藤 光次郎 (博士後期課程 3年)

渡航先: ドイツ連邦共和国・アーヘン

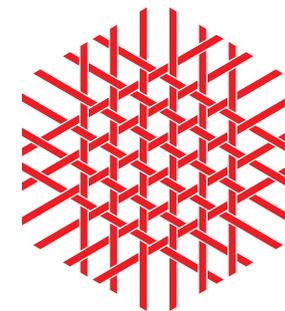
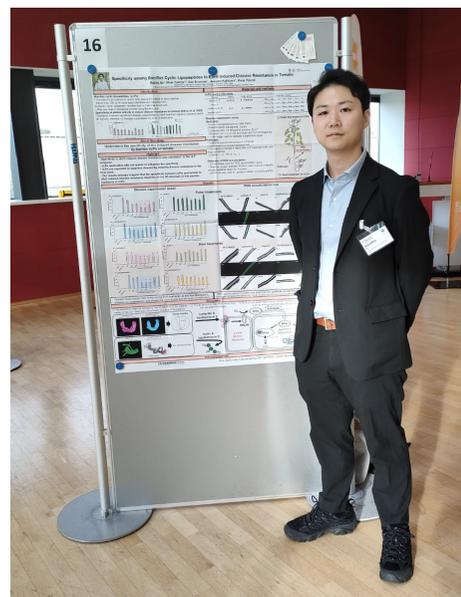
Biosurfactants International Conference 2025

ドイツ連邦共和国で開催された、微生物由来界面活性剤に関する学会であるBiosurfactants International Conferenceに参加し、自身の研究成果をポスター発表しました。私の研究は、微生物農薬に利用される有用微生物が生産する界面活性剤について、その植物病害抑制に注目し、作用機序を理解することを目的としています。

本大会では、有用微生物の培養液から精製した複数種類の生理活性物質を使用して、トマトの病害に対する病害抑制効果を評価し、生理活性物質の立体構造がトマトの免疫誘導に影響することを示しました。

参加者は圧倒的にヨーロッパからの研究者が多く、同地域では環境面からも微生物由来界面活性剤への関心が非常に高いことが印象的でした。特に、実用化に直結する研究発表が多く、すでに商業化に至った事例も数多く存在しており、その先進性に大きな刺激を受けました。

今回の学会参加は、自らの研究の意義を国際的な潮流の中で再確認



するとともに、微生物の持つ力を社会に活かし、人々の暮らしや環境をより良くしていく未来を思い描く機会となりました。ヨーロッパで進む取り組みを直に目にしたことで、自身の研究成果をどのように社会へ還元していくかを考える重要性を実感しました。また、多様な研究者との交流を通じて、国際的な連携や新しい発想の融合が未来の大きな可能性につながることを確信しました。今回得られた経験を糧に、微生物研究の可能性をさらに広げ、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えています。